

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 12 月 27 日作成)

小委員会名	耐震設計小委員会	主 査 名：大崎 純 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名：塩原 等 主 査 名：竹内 徹
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>空間構造の応答挙動、耐震設計法に関する研究をとりまとめ、一般の技術者にも分かりやすい形で情報発信することを目的とする。国内だけでなく、国際学協会の活動なども通じて海外にも情報発信を行う。</p> <p>初年度～3 年度： <ul style="list-style-type: none"> ・空間構造の応答挙動や耐震設計法に関する国内外の最新の研究をレビュー、研究の現状と流れの可視化。 ・実務設計者と連携した、研究成果の情報発信方法の検討。 ・IASS (国際シェル・空間構造学会) における空間構造の応答評価指針の原案評価と編集協力。 </p> <p>4 年度：セミナーを開催し、小委員会の成果を公開する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：大崎 純 (京都大学) 幹事：松岡祐一 (新日鐵住金エンジニアリング), 松本幸大 (豊橋技術科学大学) 委員：大家貴徳 (巴コーポレーション), 片迫幹男 (中電技術コンサルタント), 加藤史郎 (豊橋技術科学大学), 川口健一 (東京大学), 谷口尚範 (清水建設), 中澤祥二 (豊橋技術科学大学), 藤原淳 (防災科学技術研究所), 箕輪健一 (日本工業大学), 山下哲郎 (工学院大学), 吉中 進 (大阪市立大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2018 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：—

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	<p>1. ラチスシェル屋根構造の耐震設計セミナー (講義編) 『同名資料』 参加者数 30 名</p> <p>2. ラチスシェル屋根構造の耐震設計セミナー (実践編) 『同名資料』 参加者数 26 名</p>
大会研究集会	<p>1. PD：空間骨組構造の地震被害と耐震設計の新しい展開 『構造部門 (シェル・空間構造) パネルディスカッション資料：同上』 参加者数：266 名</p>
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 2018 年度大会パネルディスカッション「空間骨組構造の地震被害と耐震設計の新しい展開」を企画し、空間構造の応答挙動や耐震設計法に関する研究動向を周知するとともに、実務設計者と連携し設計例の解説を行った。</p> <p>2. ラチスシェル屋根構造の耐震設計手法の解説のため、実務設計者等を対象としたラチスシェル屋根構造の耐震設計セミナーを講義編・実践編として各 1 回開催した。</p> <p>3. 昨年度刊行された『ラチスシェル屋根構造設計指針』の耐震設計に関する記載の内容を詳細に検討し、今後の改定のために必要な内容などを検討した。</p> <p>4. 東北、熊本および大阪北部の地震での空間構造の被害形態の情報収集・分析を行い、その原因と改善方法を議論した。</p> <p>以上の活動により、今年度の目標は十分に達成された。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 非在京委員の小委員会への参加→Skype の活用を検討</p> <p>2. 構造設計者との更なる連携、情報交換が必要→JSCA との連携について検討</p>